## いの

り取った爽やかで清々しい一句。

み渡っている。新緑の五月色鮮やかな自然の美しさを十七文字で切

「当季雑詠

特選

# 風光るランドセルから伸ぶ手足

刈谷 志津 選

背負い、晴れやかな笑顔と共に立つ姿は、真新しさの光るピカピカ 子どもたちの大きな夢と希望を育んだランドセル。すばらしい未来 の成長の過程を下五「伸ぶ手足」と表現。ユニークな把握が楽しい。 の一年生。吹く風もまぶしく光り、まさに「風光る」の景色。中七 現在は色もカラフルになっている。お気に入りの色のランドセルを まばゆく光って見えることを言う。 「ランドセルから」とランドセルを主軸として、入学から卒業まで (評)「風光る」とは、春の陽光の中をそよ風が吹きわたる風景が、 ランドセルは児童が背負う鞄で

# 麗らかや岸辺に亀の甲羅干し

の営みが見えて嬉しい。 と見守りながら同じ世界に人と共に生きている動物、残されたある て、めでたいものとされている。亀との偶然の出合い、作者はじっ 日本では「鶴は千年亀は万年」と言われ、鶴と共に長寿の動物とし がり気持ち良さそうに日光浴、甲羅干しをしている。亀は古くから 近くを流れる川岸のほとりにさしかかり、ふと目に留まりよく見る 亀ではないか。やはり今日の良き日和は亀にもわかり、岸に上 明るく穏やかな春の一日。 遥かな昔も見え、平和な風景が甦る。 好天に誘われ散策に出かけ、 安らかな自然

### 新緑の眩しく空はなほ青く

よって緑色にも濃淡があり、多少の違いはあるが、中でも一番美し う新緑の尾根に感動し、「新緑の尾根幾重にも幾重にも」(志津)と 道筋の青葉若葉が覆い被さってくる対岸を見渡せば、高々と重ね合 と吾北方面に行った。仁淀川を挟んで左右に聳える山々は緑一色。 輝きに優れ、爽やかな景色を見せてくれる。つい先日、子どもたち いと感じるのは柿若葉で、陽が当たればつやつやと光り、色合いと 晩春や初夏の頃の若葉の緑を新緑と言う。それぞれの樹木に 地上には輝き眩しいほどの新緑。見上げる空は青く澄 渡邊ゆかり

> 山藤の揺れて一日山揺れる畳みたる物の四角に風薫る 渓谷を渡して数多鯉幟 竹秋や百才にして往生す 潮騒の高鳴りを聴く風五月 入選

> > 片岡 森岡

包女

竹崎たかひろ

節弥

二句抄

恒例の娘の誕生日実梅狩 あと一年経てば遠のく昭和の 夕日落つ谷間卯の花明りかな 轉りの土手にいっとき歩を休め 夏立つや白き木綿のシャツを着る 健やかな吾子の声聞く五月かな 車窓より久久に見る麦青む 夏の風邪声を取られて四面楚歌 浜育ち海の恋しよ麦の秋富士山を登りたる杖桐の花 生きいきと若葉の樹間渡る 鯉幟風を孕んでひるがえる陽を弱め黄砂降りくる昨日今日 本格派歩き遍路の目は青し 親心高くはためく鯉幟 鳶舞う歩け歩けと四月馬鹿 一休み寺苑見上げる八重桜 柿若葉朝日を受けて深呼吸 老木を叩いてみたき花空木 る里に帰るつもりの苗木植え 風 日 平野 岡村 片岡 片岡 川村 津田 森岡 大川 渡邊ゆかり 竹崎たかひろ 豊子 博子 照月 節弥 洋子 久美 嘉夫

「当季雑詠」 締切/毎月1日 転と山を浮かして椎の花 あやめうす紫は母の色

刈谷

志津

投句先 教育委員会事務局

### 今月のこども川 柳

26

クラス変え ドキドキワクワク 6 年 藤並 楽しみだ

ワク」の言葉の中ではじけている楽しい句になりま 始まり、そんな出会いへの期待感が「ドキドキワク 【評】 小学生にとってクラス変えは新しい出会いの

#### 友だちは けんかをしても 友だちだ

思う素直な心が伝わってきます。 をすることがあります。それでもだいじな友だち に変わりありません。いつまでも友だちでいたいと 「評」いつもは仲良しの友だちでも、たまにはけんか 2 年

ふきのとう あげものにして 食うとよし

シャボン玉 ふんわりとんだ きれいだな 伊野南小 4年 遠藤 玄都

伊野南小 4年 河本 初花

休みの日 何をしようか 伊野南小 4年 小松 まよっちゃう 幸雅

新 板舍 心も校舎も ぴっかぴか 6 年 井上

さんかんび みんなしんけん わたしもだ 枝川小 4年尾崎 頌介 遥

そらまめの さやのベッドで ねてみたい

ゆきをみつめる ゆきだるま 枝川小 4年 福原 陽花

冬の朝

はつもうで おみくじひいて 大吉だ 枝川小 3年 今橋 寧々

3年 濱田

待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願 月11日(水)です。たくさんのみなさんの応募をお を対象に募集しています。次回提出締め切りは7 いします。 「こども川柳」は町内全小学校の児童のみなさん

※選評は、川柳漣会のみなさんにお願いしていま